

海南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本の定着と児童の思考力を深める授業の実践
- ②学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	研修主任	福岡誠子	教務主任	大久保雅美
		特別支援教育コーディネーター	西谷陽子		
		下学年推進員	重村彩子	上学年推進員	富田裕希

校長 岸本 信和

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職・教員相互による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○昨年度3学期の漢字読み正答率90%以上の児童は95%書き正答率80%以上は84%であった。苦手としている児童がどの学年にもいるので、力を伸ばしていくために個にあわせた取り組みをする。 ●算数については、計算等テスト正答率85%以上の児童は73%。単位換算や小数・分数の計算力や図形など基礎基本の定着を図り、学力の底上げをする。	・具体的な目標をもって毎日の学習に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を着実に習得することができる。 ・自分の伸びを振り返り、自覚することができる。	・漢字ミニテストや音読カードを継続して行う。学期末に、漢字・算数確かめテストを実施し、漢字の読みの正答率を90%、書きを80%、計算等を85%以上とする。 ・算数単元プリント・タブレット等で、計算方法、概念、考え方の定着を確認し、個別指導を計画的に行い充実させる。 ・タブレットを活用し、語彙の増加や図形分野の理解等に生かす。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○昨年度は自分の考えを理由をつけて表現することのできた児童が85%であった。グループやペア活動を多く取り入れるようにしたい。 ●集中して話を聞くことが苦手である。必要な情報を整理・選択して、課題を解決していく力に課題がある。	・相手の話をよく聞き、目的に応じて理由や根拠を明らかにしながら、自分の思いや考えを話したり書いたりして表現することができる。	・「学習マナーを磨こう」を実践し、自分の考えを発表したり説明したりする機会を、発達段階に応じて意図的にとる。学期末には全教職員が振り返りを行い、指導力の向上を目指す。 ・研究テーマに沿った研究授業を全職員が実践する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。 ●家庭学習時間達成児童は71%、読書目標冊数達成児童は77%であった。 ●自主学習の内容や読書の選書には、偏りや個人差がある。お薦めの本の紹介、読書タイムの有効活用、記録用紙の工夫をし、町立図書館や読み聞かせボランティアの方と連携して、読書目標冊数達成児童数の引き上げをめざす。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・「学習の手引き」を活用し、自主学習や家庭学習の習慣を身に付けることをとおして、苦手の学習を補い、得意な学習の力をさらに伸ばしていくことができる。	・目標提示と振り返り、単元の学習計画を明示し、主体的・自覚的な学びのある授業に取り組む。 ・自主学習や家庭学習の習慣化・質の向上を目指す。 ・毎日5分間の読書タイムの確保、お薦めの本の紹介の実施、記録用紙を工夫し、読書目標冊数達成児童数の引き上げをめざす。			

令和5年度 学力向上ロードマップ



